

thanka幼稚園のだほくぶ 2024年度 園としての自己評価

公開保育実施日：令和7年2月18日（火）

評価者：木村 歩美先生（保育環境研究家）/同伴者：伊藤伸之（園長）

○保育環境について （室内）

手作りのロフトがいくつかの部屋に設けられていて、ここでの可能性を感じます。年度が変われば住まい手も変わりますので、その都度目に見える環境は変わっていくものですが、創意工夫をし子どももおとなもそこにいたくなるような空間づくりを、固定観念にとらわれずして行ってほしいと思います。

パブリックスペースにある図書コーナーはしっとりとした落ち着き感があります。発達支援センターが併設されましたが、いろいろな特性を持った子どもたちが集える・利用できる場になる可能性を秘めています。職員のための「小さなスペース」があることはとても魅力的です。

人的・心理的な環境として大きな影響を与えるおとなの意識のコンディションを整えていくことはとても大切です。各保育室隅に設けられたスペースは、それぞれの保育者によって使い方はまちまちですが、このような場所があること自体が、保育者を大切にする意識の表れであり、このことは子どもにとってもよい影響を与えるだろうと考えています。

（園庭）

これからつくっていく期待感があります。子どもや保護者、スタッフと関係性を深め高めながら愛着のある空間づくりを目指して行ってほしいと思います。築山は、メンテナンスやあそびの広がりを考えつつ、どの年齢の子どもも集まり自他ともに充実できるような場に時間をかけて創って行ってほしいと願います。

【評価を受けての園としての自己評価（改善策など）】

各保育室では、子ども達の遊びの空間の保障、継続して続けられることを目的として年齢に応じてロフトやパーテーションの設置を利用しながら物的環境の充実に努めているところであります。その点からも保育室内ではコーナー遊びの展開が広がり遊びの自由度が広がっていると感じます。

園庭についても建替え工事を終えこれからの環境構築を早く進めようと考えています。

併せて「こども」と「おとな」が居心地の良い環境を目指しそれが生活への潤いと安心に繋がり毎日が「楽しい」「やりたい」と思う保育に努めたいと思います。